

東証市場再編が企業行動に及ぼす影響 —東証1部からプライム市場へ—

芹 田 敏 夫
花 枝 英 樹

目 次

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. はじめに | 5. 分析結果 |
| 2. 先行研究 | 6. 頑健性のチェック |
| 3. 東証市場再編の概要 | 7. おわりに |
| 4. 分析方法 | |

本稿では、2022年4月に実施された東証の市場再編が企業行動に及ぼす影響を分析した。特に、市場再編前後でプライム市場の経過措置適用企業がプライム市場のそれ以外の企業と比較して、上場維持基準の数値の改善を図ったか否かを検証し、三つの上場維持基準に関して両企業グループ間で数値改善に統計的に有意な差が認められたが、規模的には大きな値ではないことが判明した。さらなる経営改革努力が要請される結果といえる。なお、本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付されている。

1. はじめに

東京証券取引所（以下、東証）は、2022年4月4日付で、従来の市場1部、市場2部、マザーズ、JASDAQ（スタンダードおよびグロース）の五つの市場区分を、新たにプライム市場、スタン

ダード市場、グロース市場の三つの市場区分へ再編を行った。本稿の目的は、この東証の市場再編が企業行動に及ぼす影響を分析することにある。特に、最上位に位置づけられるプライム市場に焦点を当て、プライム市場上場維持基準（以下、プライム上場維持基準）を満たさないが、「上場維



芹田 敏夫（せりた としお）

青山学院大学経済学部教授。大阪大学大学院経済学研究科後期課程単位取得退学。甲南大学経済学部助教授、青山学院大学経済学部助教授を経て、2004年より現職。主な著書に『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』（共著、日本経済新聞出版社、2009年）が、最近の論文に「パッシブ運用がコーポレート・ガバナンスに及ぼす影響」（共著、『現代ファイナンス』、2022年）等がある。



花枝 英樹（はなえだ ひでき）

一橋大学名誉教授。1976年一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。一橋大学大学院商学研究科教授などを歴任。最近の著書・論文に、『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析—』（共著、白桃書房、2020年）、「株価指数とそれをめぐる諸問題」（共著、『証券アナリストジャーナル』59(4)、2021年）などがある。